

部局名	教育委員会	所属名	教育センター	所属長名	佐藤 雅英	電 話	486-9588
-----	-------	-----	--------	------	-------	-----	----------

1. 事務事業の位置付け・概要（P L A N）

コード	3392		事務事業名称	教育活動調査研究事業					短縮コード	経常	3392	臨時	
予算区分	会計	01	一般会計	款	10	教育費	項	01	教育総務費	目	03	教育振興費	
区 分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務 ☐ その他				根拠法令等		八千代市教育センター設置条例第3条1～3項						
事業概要（事務事業を開始したきっかけを含めて記入）													
本事業における「夏季実技研修会」は、昭和51年に理科の実験研修、8ミリ映写機の活用研修、体育の実技研修の3講座で始まったものである。実技研修という名称もそこから来ている。その後、平成5年からは、指導課の担当から教育センターの担当に変更された。情報教育の推進から、コンピュータ関係の講座が増えてきたことが担当変更の原因の一つである。研修講座は18講座で継続していたが、教職員の減少により、理科・体育など小中が別に実施していたものを統合し、平成10年度は16講座になった。現在は、教員の要望や技術習得の必要性増加のため、講座数は25前後となっている。													
事務事業を取り巻く状況の変化 又、今後の変化の推測				総合計画の施策体系	6本の柱（章）	02	第2章教育文化都市をめざして						
教育に対する社会のニーズは、拡大している。それだけ、教員が身につけなければならない技能は増えていくと考えられる。講座数を教育課題に対応した内容にするとともに、保護者のニーズ、地域のニーズを配慮し、教員の資質の向上を図る必要がある。					大項目（節）	01	第1節教育						
					中 項 目	02	2. 義務教育						
					小 項 目	02	(2)教育内容の充実						
					細 項 目	01	①学習指導・生徒指導の充実						
02	②新しい教育環境への対応												
				実施計画の計画事業									
計画事業の位置付けの有無				☐	計画事業期間		～			計画事業費		千円	

2. 事務事業の目的・指標・実績（D O）

対象 （誰を何を対象にしているのか）	八千代市小中学校教職員							
手段 （具体的な事務事業のやり方、手順、詳細）	※平成23年度に実際に行ったこと： ①「夏季実技研修会」実施 ②「教育やちよ」年3回発行 ③「教育活動調査研究報告書」発行							
	※平成24年度に計画していること： ①「夏季実技研修会」実施 ②「教育やちよ」年3回発行 ③「教育活動調査研究報告書」発行							
意図 （何を狙っているのか）	教員の資質の向上							
ねらい（上位施策の意図）	入力対象外							
区 分				単位	22年度	23年度		24年度
					実績	計画	実績	計画
対象指標	指標1	小・中学校教職員数	人	836	895	895	890	
	指標2							
	指標3							
活動指標	指標1	研修参加者数	人	598	630	687	696	
	指標2	発行部数	部	4,100	4,100	4,100	4,100	
	指標3							
成果指標	指標1	研修参加者の満足度	%	90	90	90	90	
	指標2	利用数	部	3,463	3,463	3,463	3,463	
	指標3							
上位成果指標	指標1							
	指標2							
	指標3							

コード	3392	事務事業名称	教育活動調査研究事業				所属名	教育センター
今後の方向性	⑥この事務事業の今後の方向性を選択し、その詳細について右欄に記入する。	☐ 改革・改善して継続			都市化・少子化が進む中，児童・生徒を取り巻く環境は日々変化している。そのような状況下，教育活動を効果的に推進するためにも，諸課題に関する実態調査・意識調査を実施し，分析して教育課程の確実な遂行に資すること教員の研修の充実をはかることは今後も重要である。			
		☐ 手法プロセスの改革・改善						
		☐ 事業規模の拡大・縮小						
		☐ 統合・役割見直し						
	☐ その他							
☐ 廃止・休止								
☐ 事業完了								
☒ 現状のまま継続								
	⑦この事務事業の今後の経費・成果の方向性について選択し、右欄に理由を記載する。			経 費			今後も，児童・生徒の教育活動の向上を図るため，最も適した課題を常に吟味し，教育現場や市民に活用される調査研究の推進を図っていく。	
				削 減	不 変	増 加		
		成 果	向 上	☐	☒	☐		
			不 変	☐	☐	☐		
			低 下	☐	☐	☐		

この事務事業に対する市民や議会の意見（担当者が把握している意見） ※内部サービス業務の場合は、住民ではなく、サービス利用者、関連部門の意見や実態など									
夏季実技研修を受けた教員の講座後のアンケートでは，ほぼ１００％の参加者から満足との回答があった。個別の回答を見ると２学期の授業に早速活かせる，校務の効率化が図られる等成果を挙げる一方，更に研修を積む必要があると課題を持つ参加者もいた。 近年初任・若年層の教員数が増加しているが，今後も数年その傾向が続くため，益々教員の指導力向上が，市民からも期待されるところである。									

所属長コメント	夏季実技研修においては２６講座を実施し，市内小中学校教員６８７名が参加した。いずれの講座も新学習指導要領の趣旨や今日的な教育課程に対応した内容であり，教職員の資質向上のために大きく役立っていると言える。「教育やちよ」の発行や教育活動調査研究においては，「伝え合う力」，「教職員研修の推進」，「学校保健の充実」，「子どもと健康」をテーマとして，幅広い視野から教育情報を発信することができた。今後，時代の変化に伴って教育への期待がますます高まることが予想されるため，本事業のさらなる充実が望まれる。								
評価調整委員会評価	☐ 改革改善して継続			担当課の評価のとおり，現状のまま継続とする。					
	☐ 手法プロセスの改革・改善								
	☐ 事業規模の拡大・縮小								
	☐ 統合・役割見直し								
	☐ その他								
☐ 廃止・休止									
☐ 事業完了									
☒ 現状のまま継続									